

C-11 「まつり」に関する研究(4) —各種番手のブロードに対するまつり糸—
文化女大家政 橋本綾 成瀬信子 三重短大 O村田温子 橋本貴美子

目的 被服製作時の布と縫糸の関係は重要な問題であるにもかかわらず、科学的な説明は少ない。そこで各種番手のブロードを各種番手のカタン糸で普通まつりを行ない、まつり部分の切断状態を調べ、布に適したまつり糸について検討した。

方法 綿ブロード40番, 60番, 80番, 100番を供試布とし、カタン糸40番, 60番, 80番でそれぞれ普通まつりを行なった。針目の大きさは4mmから2mmおきに12mmまで、布の織糸のすくい本数を2本とし、布のたて方向とよこ方向についてまつりを行ない、まつり部分の強伸度試験を行なった。まつり部分の試幅は8cmとした。

結果 1. いづれの番手のブロードも、まつり部分の切断強度は、布の方向よりも、まつり糸の種類による差の方が大きい傾向である。2. 試幅8cmについては、糸の種類によるまつり部分の切断状態の差は顕著であるが、まつり部分一ヶ所に対する強度としてみた場合は、布とまつり糸との関係は明らかな傾向が見られない。3. 60番ブロードのよこ方向のまつりについてみると、40番カタン糸のまつりはいづれの針目間隔についても織糸が切断し、80番カタン糸のまつりは常にまつり糸が切断する。しかし、60番カタン糸のまつりは針目間隔が大きいときはまつり糸が切断するが、針目間隔が小さいときは織糸とまつり糸が混って切断される。